疾患モデル通信　2023.10　No.57

SHR 等疾患モデル動物とともに

日本エスエルシー株式会社　高木 博隆

この度、SHR 等疾患モデル共同研究会理事に就任させていただきました日本エスエルシー株式会社の高木博隆です。

弊社は貴研究会からの委託により SHR 等疾患モデル動物の繁殖・生産ならびに販売を行っております。弊社拠点である静岡県浜松市は新型コロナウイルスが沈静化された現在、NHK の大河ドラマ「どうする家康」の効果もあり活気にあふれております。写真 1 は徳川家康公と武田信玄公が戦った三方原合戦の場、犀ケ崖(さいががけ)古戦場ですが、浜松市の中ほどにあります。ここに平和へのメッセージを込めた記念碑が新たに建立されることになり、本年の4月 29 日に徳川家康公役の松本潤さんと妻・瀬名役の有村架純さんがくわ入れ式のためこの地を訪れ、その時の写真が地元広報紙の表紙を飾り大きな話題を呼びました(広報はままつ 2023 年 6 月号 PDF 版／浜松市(city.hamamatsu.shizuoka.jp))。

写真 1:犀ケ崖古戦場

さて、私と SHR 関連動物との出会いですが、私が日本エスエルシー株式会社に入社した 2000 年前半になります。この頃は生活習慣病の作用機序の解明・創薬・栄養学の研究が活発に進められており、高血圧、肥満ならびに糖尿病の特徴を持つ動物の需要が非常に高い時代でした。入社当時、私は主に関東地区の販売・営業業務に携わっておりましたが、他の業界同様、実験動物業界においてもお客様に動物等をご利用いただくためには営業担当が自社動物等の価値や有用性を十分理解し、お客様のニーズに合った動物等をご紹介することが強く求められていたと実感しております。したがって、入社したばかりの私は研究会より発行されている News Letter を参考にさせていただきながら SHR 関連動物の販売に勤しみました。さらに、年 1 回実施される研究会による弊社生産施設調査にも長年立ち会わせていただき(写真2)、様々な方面において多くのことを学ばせていただきましたことを今でも深く記憶しております。当時は2日間に亘りご視察をしていただいておりまし

○目次

巻頭言 ・・P1
理事会および総会報告・・・P3
お知らせ・・・P5

た。初日は静岡県東部の伊豆市で家森会長、調査員の先生方と合流し山中にある中伊豆支所をご視察いただき、夕方には静岡県西部の浜松市まで移動し、翌日に浜松にある引佐支所を調査していただきました。移動時間が長かったため、車中で多くの情報交換をさせていただくことができ、貴重な時間を過ごすことができました。また、研究会生産管理部の故土倉覚様とも多くの時間を共有させていただきました。営業同行だけでなく、第 65 回日本実験動物学会（富山大会）でのランチョンセミナーの開催といった広報・宣伝活動等、様々な活動を共に進めさせていただき、私にとってかけがえのない財産で、土倉様には改めて深く感謝申し上げます。

写真2：生産施設調査の立会

この 20 年の間には SHR 関連動物として 2015 年には非アルコール性脂肪肝（NASH）のモデルとなる SHRSP5/Dmcr ラット、2017 年には多動性（ADHD）モデルとして SHRSP/Ezo ラットの 2 系統の販売を新たに開始いたしました。さらに先日の理事会において、岡山大学の渡辺先生からサルコペニアの研究における SHRSP5/Dmcr ラット有用性の報告もあり、この所話題が多い老化研究での利用を見据え、お客様への話題提供を弊社代理店と共に進めております。

近年の実験動物のトレンドは CRISPR/Cas9 システムを活用したゲノム編集動物であり、自然発症モデル動物の利用から研究者が個々の目的に合ったゲノム編集動物を作製し利用する方向に移行しつつあります。SHR 関連動物においても CRISPR/Cas9 システムを適用し新たな特性を持たせることで、今後の医学・医療の発展に貢献できるものと期待しております。

創薬は低分子化合物から蛋白質などのバイオ医薬品、核酸医薬高分子を用いた創薬に変わってきています。このような状況で SHR 関連動物の販売数は以前ほどではないものの、疾患モデルとしての知名度や需要は現在も高く、栄養学から見えてくる疾患予防の重要性、また病気に苦しみ新薬を待ち望んでいる患者様も多数いらっしゃいます。実験動物の特性を生かした研究ならびに実験の必要性が今後も長く継続し進展することを願いながら、創薬並びに栄養学の発展に重要な役割を担っている SHR 関連動物の生産・販売や普及・促進活動に弊社は努めてまいる所存でございます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。